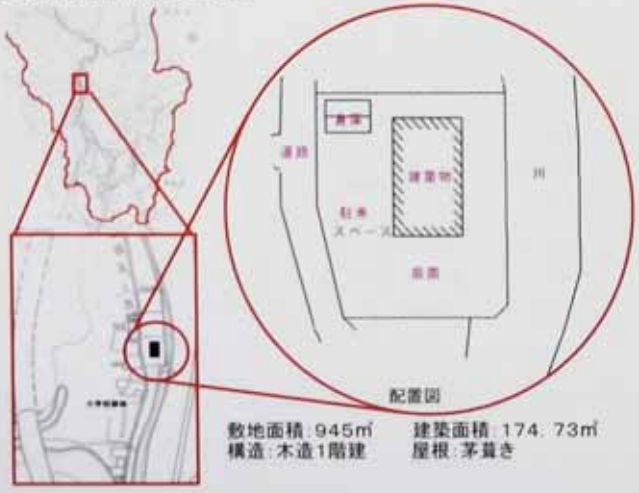
古民家再生　～ルームシェアーで地域おこし～

熊本県南部に位置し人吉市から4kmのところにある山江村は、人口3，456人、総面積121．19㎢であり、その内90%が山林を占める場所である。仰烏帽子岳（のけえぼしだけ）や高岳などの山岳地帯と万江川、山田川が北から南へと流れている。この川は人吉市にある日本三大急流の球磨川へと合流している。南部では比較的平坦で農業が主体となり、北進するに従って山岳地帯となっている地域である。このようにのどかな田園風景と緑豊かな山々に囲まれた自然あふれる村である。

この山江村では栗の栽培に力を入れており、盆地ならではの朝夕の寒暖差が山江栗の美味しさの秘訣といわれている。栗の産地としても知られ、収穫される山江栗は、大粒で糖度が高く、かつては昭和天皇にも献上され「日本一」との呼び声もある。そんな山江村は年々人口が減り過疎化しているのが現状である。毎年約50人の人口が減り、空き家が増加している。この過疎化対策として山江栗の栽培や農業の活性化を図るために空き家をルームシェアとして活用し、若者たちが「地域おこし」のために生活できる空間を設計することにした。

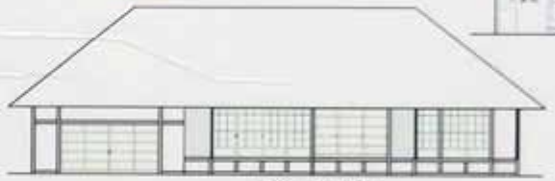


配置図

敷地面積：945㎡　建築面積：174．73㎡
構造：木造1階建　屋根：茅葺き

提案平面図

提案A－A'断面図



提案西側立面図

提案図面

古民家図面

西側立面図

平面図

その空き家は栗栽培農家として明治36年に建築された。入口の広い土間で収穫した栗をイガと実に分ける作業場として存在していた。そのような古民家の良さを残しつつ、現代の若者が快適に生活できるような空間とし、同じ目的で地域おこしのための共同生活を行える場を備えつつもプライベートとコミュニティー空間の場を設けた。

もともとあった、囲炉裏のダイニングの広がりを持たせるために中央の空間に憩いの場として樹木を植え、くつろぎとやすらぎの空間を設けた。

浴室も多人数で入れるように裸でのコミュニケーションを図れるような空間とした。

玄関であった箇所は縁側の高さと合わせ、ルーム2の縁側として変化させた。

土間を玄関とすることでコミュニティ空間からプライベート空間への動線を確保しルームメイトとの交流の機会となるようにした。

南側面図